

* 「戦争体験者の署名に託する思い」

署名取組から4か月目に入ります。定年退職後12年間、毎日健康を兼ねての「1万歩」の延長上に、最近、西武拝島線「玉川上水駅」とJR中央線「立川駅」デッキで、1時間立っています。日々数筆ですが380筆になりました。

昨日高齢者男性が署名の最後に「私は戦争孤児です。」と一言述べて去っていきました。改めて、今までの報告を読み返し、71年前、戦争体験者の「戦争は二度とごめんだ。悲惨な戦争は絶対に『風化』させないでください。孫・子・若者を二度と戦場へ送らないでください。」の強い願い、思いを感じ取っています。…報告①～⑩から抜粋。

○「5歳の時、3・10下町空襲で家族全員死亡。戦争孤児です。小学校は7回転校しました……。戦争はダメです。」署名して下さった5名全員80歳以上の戦争体験者。(1月26日)

○上水縁散歩の高齢女性。「私は安倍さん大嫌い。戦時中疎開から実家の深川に戻った1週間後に米軍の空襲を受けた。隣のもうすぐ結婚を控えていたお姉さんと二人で逃げ惑った。本人は白無垢の晴れ着をかぶりながら逃げたが火の粉で焼け死んだ。妹さんは全く不明のままでした。我が家も全焼……。」(1月13日)

○84歳女性。敗戦時12歳。葛飾の軍事工場で働く。3月10日下町大空襲。離れていたの直接の被害はない。戦争はダメだ！(1月13日)

○男性「大阪で空襲を受けた。食べるものなくてつらかった。戦争はダメ！」(2月11日)

○私の訴えの短いフレーズに、行ったり来たりする杖を突いた高齢男性が署名「91歳です。シベリア抑留3年間。仲間が次々亡くなり、悲惨な体験をした。戦争は絶対に二度としてはいけない」。(2月11日)

○地域戸別総当たり。男性高齢者2人、「戦争はやってはならない。惨めな思いだけが残っている」。(1月25日)

○近所の知り合い。署名。「92歳」とのこと。私が「戦時中の体験を文字にさせていただきませんか?」。即きっぱり断られる。敗戦時20歳、いい思い出ばかりでないでしょう。口には出せないつらい嫌な体験を強いられたのでしょうか。(1月13日)

○男性「終戦時、国民学校1年生悲惨な思い出だけだ。戦争だけは絶対ゴメンダ！」(12月)

○犬を連れた女性「父親が傷痍軍人だった。惨めな思い出しか残っていない。」(12月)

*上記にも述べましたが「対話を楽しみながら あちらこちらぶらぶらと」との気持ちで気楽に取り組み始めました。しかし、署名に応じて下さる、「戦争体験者」お一人おひとりの「再び物言えぬ時代に戻さぬために」の願いと決意を感じています。「戦争体験を聞き出す」ことは、「対話を楽しむ」などとはほど遠いものと実感しています。「戦争法廃止」「野党は共闘」の声を広げましょう！

星野直之